



第76号

2021年7月1日

幸樹

こう じゅ



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550



あじさい 紫陽花まつり

6月15日の地域交流カフェは、さんしょうご利用者と職員で、「紫陽花まつり」をテーマにしておこないました。

さんしょうリビングには、職員が自宅や訪問先でいただき持ち寄ったさまざまな種類の紫陽花が活けられました。美しく咲き誇る紫陽花の写真も展示され、職員・利用者が一緒に作った紫陽花の紙花が飾られ、趣向が凝らされた紫陽花でいっぱいになりました。

紫陽花の押し花・写真・折り紙・ハガキ作りでは、皆さん真剣に作られ、真っ白なハガキに色々な色がついていくと表情が明るくなり、ハガキとの写真撮影では満面の笑みになりました。全て青色で仕上げたり、たくさんの押し花を貼ったハガキや、写真一枚だけのハガキ等、個性的な作品ができました。



ティータイムは、数種類の紅茶とティーカップを用意しました。紅茶の香り、カップの色・形で迷っていらっしゃる方もいましたが、やはり自身で選ぶことって心が躍ります。デザートは、ローズヒップティーとバタフライピーの二種類の紅茶でつくったゼリーにバニラアイスを添えた「あじさいゼリー」。ローズヒップティーのピンクの



「雨傘と少女」

絵 高橋 聖大

ような赤、バタフライピーの透き通った青がとても綺麗で、味も良くさっぱりとした口当たりでした。

「あじさいが一番好きな花なの」「ハガキ作りは初めてだったな。よかったよ」「あじさいゼリーきれいだったわ」等の感想が聞かれました。外出が難しい日々ですが、賑やかな一日を一緒に



過ごすことができました。(介護福祉士・師山亜紀)

「一人でいては、だめよ！」

橋本多津さんに、お聞きしました



今年1月に脳梗塞を発症し、5ヶ月に及ぶリハビリを経て6月初め退院された橋本多津さん(81歳)。あんず訪問看護訪問看護・リハとケアマネジャーがご支援させていただくことになりました。多津さんは発症時のことを良く覚えており、「何か皆さんのお役に立てれば」と、お話を聞かせてくださいました。

(聞き手：ケアマネジャー 岩橋多恵子)

発症時も、人間関係が役立つ

多津さんとは5月、リハビリ病院での退院に向けたカンファレンスで初めてお会いしました。発症当時は失語や嚥下困難があったとのことでしたが、リハビリを頑張り、身の回りのことはほとんどご自分でできるようになっていました。体調の変化の観察や薬の飲み忘れ防止、リハビリの継続のため訪問看護の依頼がありました。

「今年の初めに兄嫁と電話をしていたとき、なんかうまく話せないなと感じていたんだけど、翌日心配した兄嫁が来て、お向かいさんに預けていた鍵で玄関を開けて一緒に近くのかかりつけのお医者さんに行ってくれたの。そこから医療センターに救急車でいったのよね」と、当時のことをはっきりと覚えています。

兄嫁にいつもと違う様子に気づいてもらえたこと、鍵を預けられる近所の方がいること、すぐに相談できるかかりつけのお医者さんが近くにいること、多津さんには万一の時に役立つ関係がいろいろありました。

多津さんは「ひまわりクラブ」という60歳以上であれば誰でも入会できる会に所属しています。フラダンス、グランドゴルフ、書道、絵手紙などたくさんの趣味活動、一泊や日帰り旅行も定期的に催されているそうです。

多津さんは、「私は何でもかんでもやった。終わればご飯を食べに行ったら夕方までおしゃべりして…。ほとんど家にいる時間がなかった。クラブの会長さんは、一人でいる人に声をかけてあげてといつも言っている。グランドゴルフをしていると一人で見に来ているお年寄りがいるのよね。私も“こっちに来て一緒におしゃべりしましょうよ”って声をかけるの。最初は遠慮するけど何度か声をかけていると“じゃあ”て来てくれる。一人なら



ひまわりクラブの仲間たちとフラダンスを披露したり、旅行したり

自分の家にいるのと同じでしょ。声をかけて、それで仲良くなれば友だちになれるかもしれないし…。

最近姿を見ないなと思う人に電話してみる。実は入院してたなんて聞くと“食べるものあるの？”って聞いて、何か作って持っていったり買い物して行ってあげる。そして一緒に食べる。元気になってきたからもういいかなと思うと“一緒に食べて”って言われて。みんな一人は淋しいのよね

地域で暮らすためにも、友だちづくり

多津さんも入院中たくさんの方から電話をもらいました。「私、電話魔なのよね」と笑いますが、最初は会話もままならなかったのに電話が励みになり言葉のリハビリになったのは確かだと実感しています。早く家に帰り、みんなに会いたいという思いが入院生活を支えてきたと、多津さんは振り返ります。

そして、今は買い物に行くため自宅の前を通った友人が、「何か買い物ある？困ったことはない？」と寄ってくれています。

「私は体は細いけれど、大きな病気はしたことがなかった。手術をすれば治る病気と違ってリハビリはとても長くつらかった。先生にもスタッフにも支えられてここまで来られたけれど、もう入院はしたくないわね」と話す多津さんは、自宅に戻ってから入院生活で身に付いた早寝早起き・薄味の食生活などを心がけています。

これからの多津さんの目標は、

「病気を再発させない！」

「息子の住む大阪に行きたい！」

多津さんのお話からは、あらためて地域の中で暮らすために大切なことをたくさん気づかされます。幸樹会「地域交流カフェ」が以前のようなかたちで再開されたときには、ひまわりクラブのフラダンスをぜひ披露してくださいね。楽しみにしています！



看多機さんしようの見学研修の感想

千葉健愛会あおぞら診療所で在宅医療研修をされている研修医の方々が、さんしようを見学研修をされ、感想をいただきましたので、ご紹介いたします。

■退院後を想像できる医師に

新東京病院・初期研修医 中村 駿佑

私は普段、新東京病院で初期研修医として働いており、恥ずかしながら介護施設に直接関わる経験がありませんでした。そのため、看護小規模多機能型居宅介護を今回初めて耳にしました。

今回お伺いして、医療行為を含めた様々なサービスを一つの事業所で提供できることの利点、一括で契約しているため非常に柔軟に対応できることを学びました。今回の実習のなかでも、予定の訪問リハビリを中止して傷の処置を行うなど、単体のサービスでないからこそできる場面を拝見致しました。

また、現場で働かれている方々の仕事に対する情熱に関しても感銘を受けました。特に様々なサービスを提供するからこそ、患者さんを点で把握するのではなくより密接に関わることができるのお話を聞き、利用者様と働かれている方々との間に素晴らしい関係性が保たれているのではないかと想像した次第です。今回の実習で見学する中でも、利用者様が笑顔でサービスを受けている姿を見たことが印象的でした。

私の今後の医師としての仕事の中でも、今回学ばせていただいたことを参考に、疾患だけでなくその患者さんが退院した後の生活を想像できる医師になりたいと思います。

■看多機がもっと各地に広がったら

東京医科歯科大学・初期研修医 原 恵子

私は看護小規模多機能型居宅介護、通称「かんたき」と呼ばれるものが、実際にどのような仕組みになっているのか、どのようなサービスを提供しているのか、ほとんど分かっていませんでした。しかし、本日の研修を通して、このような仕組みこそが、高齢化が進み、多様なニーズが出てきている現代において最も必要とされているものだと感じました。

私の祖父、祖母は、亡くなる直前まで在宅で父が看ておりました。たくさんの方々の苦勞をしてきたのを間近で見てきたので、このような仕組みがもっと各地に広がったらと心から思います。本日この仕組みを知ることが出来たことは大変貴重でした。

■急性期病院の診療も円滑に

松戸市立総合医療センター・初期研修医 水越 康平

1日と短い期間でしたが、より在宅医療のニーズが高まっていく日本において、顔なじみの関係を維持することのできる"かんたき"のメリットが大いに見えた研修で

した。また、この制度・施設が先進的に展開されている松戸市により関心を持ちました。このようなサポートがあることで急性期病院での診療も円滑に行えていると思います。その支援に感謝して診療に努めたいと思います。

看護師のこころ

あんず訪問看護ステーション・看護師 黒才 香苗

私にとって看護の仕事の一番の魅力は様々な方々との出会いです。今の職場に勤めてすぐTさんのお宅に訪問させていただくことになりました。Tさんは政治の仕事をされてきて、自らの半生をドキュメンタリーとして映像化もされております。豪快で痛快なお話は爆笑と興奮で、つい処置の手が止まって聞き入ってしまうこともしばしばでした。また時には私の気弱な言動に「愛ある喝の一撃」を頂くこともあり、励まされています。ご自宅のお庭は本当に素晴らしく高い木の下には百を超える可憐な花々が咲き誇りその景色を見るたびに心が癒され、ため息が出るばかりです。

偶然の出会いが…

Tさんは聞き上手でもあります。ひょんなことから一昨年自宅で看取った私の父の話になり、偶然Tさんは父のやってきた仕事に詳しい事がわかりました。

「あなたのお父さんは正義の新聞編集者ですよ」

そう大きな声で語ってくれました。その言葉を聞いた私は、ハッとするとともに、胸に熱い思いが沸き上がりました。訪問の車に戻り

声を上げて泣いてしまいました。その時の気持ちを言葉に表すことは難しいのですが、存命中分かりあえなかった父への思いや父の生涯が認められたという安堵感などがこみ上げたのだと思います。また、父と向かいあうきっかけになった出来事でした。

看護師歴 30年、阪神淡路大震災の際には神戸市の病院に出勤もしました。奥の深い看護の仕事は新しい学びと反省の日々です。そんなキャリアを経て今思う私のテーマは「心に寄り添う」です。自分の常識で相手を枠にはめ込むのではない。「辛そう」「心配です」の主語は「看護師が」ではないのか？ご本人はどう感じているのか？という発想を持っていないと自己満足のための対応になってしまう。自問自答を繰り返し、間違えたくないと思います。今後も貴重な経験を積み重ね、日々邁進して参りたいと思います。(絵も黒才香苗作)





デンマーク便り...③⑥

ラスムッセン 京子

今年の夏至祭は殆どの地域で中止、一カ月以上続いた晴天で乾燥しすぎていたこともあって、焚火も湖に浮かべたボートの上だけで行われたりしました。また、6月は、最終試験を終えた高校生が卒業します。今年はい個別クラスでの卒業式です(写真)。伝統の卒業した学生たちを乗せ、飾り付けられたトラックも賑やかに街を走り抜けています。Covid 19 を人々は忘れてしまったようです。屋内でのマスク着用の義務も解除されました。



看護師たちのストライキ...②

5月号で、看護師ストライキのことを報告しました。看護師たちは、政府・自治体側が提案した1年5.6%、3年で16.8%の賃上げ提案では、他職種に比べて低く抑えられている看護師給与の改善は実現できないと、1週間のストライキを実施しました。

最近、国営テレビで、デンマーク看護師評議会の議長であるグレーテ・クリステンセンさんが、労働組合運動を束ねる主要組織のリス・ガード議長に支援を求めたメールのやりとりが報道されました。

グレーテ・クリステンセンは、看護師だけでなく、従来女性の仕事であると先入観がもたれて賃金が抑制されている他の職種についての格差をなくすための闘争でもあると訴えています。そして、公的労働における紛争は、世論の影響が大きく受け、だからこそ、紛争を解決する責任が適切な場所つまり雇用主(国・自治体)に向けられるように大きな支援と連帯が必要なのだとリス・ガードに伝えています。他の労働組合、臨床技師組合、レントゲン技師組合、清掃業務従事者組合などからの支援や連帯の動きは得られませんでした。

看護師労働組合が孤立した感じで、これから雇用者側である国・自治体との交渉が始まります。

一部の世論には、失業者や休業を余儀なくされ店やレストランを閉じてしまわなければならない状況に追い込まれた人々が多数いるときに、医療従事者のこんな賃金上昇額は適切か、という声もあります。

さて、どういう結果になるのでしょうか。

新入職員の紹介

からたち薬局

薬剤師 松下 泰樹

今までは薬局のみを事業とする職場でした。そこで、薬剤師の観点からの薬物治療(提案)だけでは患者様を幸せにし、自分らしい人生を送ってもらうことに限界を感じていました。

幸樹会には、さまざまな職種の方がいらっしゃいますので、皆様の仕事や考えを学び一緒に患者様を支援していきたいです。どうぞ宜しくお願いします。



「紫陽花まつり」でつくった写真・ハガキ



八柱学習会

●7月、8月の学習会はお休みとします。

▼次回学習会予定(「定例日:毎月第3金曜日」)

9月17日(金)18:30~、

あつまーれ幸樹

「地域ケアの変遷と未来」

1975~2020の時代体験と実践から語る③

お話・武井幸穂氏

《参加自由》

今月の屋上太陽光発電量は、

1,283KWh



幸樹会館電力使用量 418KWh 自給率 30.64%

職員募集! 非営利・働きがいある職場

看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ:本部中野まで、☎047-701-7550